

月報 岡崎の教育

52年度 No. 47~58



岡崎市教育委員会





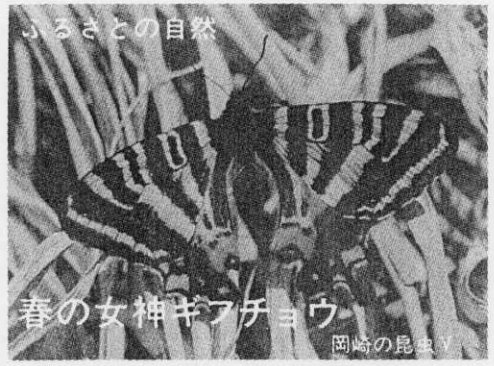
西に矢作の清流、
 東にはかすむ山脈。
 四望豊かな沃野に
 三十八番目の小学校が
 今、産声を上げた。

六北・岡崎・羽根・六名の
 四校より集う児ら四一五名。
 一つの輪となり、回り、広がり
 力強い第一歩を踏み出す。

昭和52年4月1日／編集・発行／岡崎市教育委員会
 印刷／研文印刷社



(わたしたちは1年生、学校も1年生、ばんざあい一城南小)

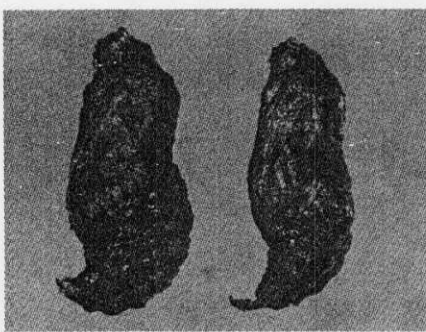


酷寒の冬もようやく峠を過ぎ、三月の声を聞くころになると、そわそわと足元が浮立つ大きなムシがいる。ムシキチと呼ばれる頭の黒いムシである。われわれムシキチにとって、春の訪れは何となくしく、待ち遠しいものであったらうか。春一番に現れる蝶はモンシロチョウである。初夏になればどこにもいるこの蝶を、春、初めて目にした時、何となくいいことか、何とかわいらしいことか。続いて現れるのが、コツバメ・ルリシジミ・ミヤマセリ。それに、冬を成虫で越冬したヒオドシチョウなども元気に飛びかい、そして、春の暖い日が、ようやく開き始めた桜のつばみにそそぐころ、ひっそりと現れるのが、春の女神「ギフチョウ」である。

このギフチョウは、江戸時代にはダングラチョウと呼ばれていた。本州の西端の山口県から関東までの、限られた地域に生息し、発生地ごとに少しずつ斑紋が異なっている。岡崎市の東部にも、このギフチョウがほんのわずかではあるが生息している。

ギフチョウは、三月下旬から姿を見せ、四月中旬から下旬にかけて産卵する。真珠のような色と形をした卵は、食草のカンアオイ類の裏面に数卵かためて産みつけられる。幼虫は黒色で、多数の毛におおわれる。小さいうちは集団で生活し、大きくなると単独で生活するようになる。六月に入るところ、蛹となり、そのまま冬を越して、再び春が訪れるのを、落葉の下でじっと待っているのである。人知れぬ山間の谷にひっそり生息し、だれにも知られず、姿を消していくギフチョウもその美しさ、愛らしさは春の女神と呼ばれるのにふさわしい。ムシキチにとって、この女神こそ一年の幕開けの象徴である。

ギフチョウの食草のカンアオイ類は、谷間の、水気の多い土地の林間にはえてある小さな草で、まわりの木が大きくなつて太陽光線が乏しくなると枯れてしまう。また、逆に木が切られて明るくなりすぎて枯れてしまう。もちろん、カンアオイ類がなくなればギフチョウもいなくなるわけで、ギフチョウを取巻く環境は極めて不安定である。しかも、そこへ人間が介入し、山を切り開いたり、道を作ったりして、春の女神を滅亡の方向へ押しやっている。しかし、また逆に、植



ギフチョウの蛹
ヒメギフチョウの蛹

林された杉林にギフチョウが数多く発生することが多いのも事実である。木と木の間隔や木の茂り方がカンアオイ類の育つ環境に適しているからである。このように、人間とギフチョウは断ち切ることのできない関係にあるのである。

われわれムシキチにとって、ギフチョウが見られないことほどさみしいことはない。でも、このままでは近い将来、このさみしさを味わわなければならなくなるだろう。人間の力によって、このギフチョウを滅亡の危機から救うことは容易ではない。しかしわたしたちは、岡崎に残されたこれらの貴重な生物を、少なくとも人間の手によって滅ぼしてしまふことのないように心がけたいものである。

春の訪れ、そして、春の女神ギフチョウ！今年も元気に、その愛らしい姿を、私の前に見せておくれ！

(六ツ美中部小 杉坂美典)

●「B・C・R」

杉浦博司

六年生を見習った五年生の奉仕作業で、雑草の「オオイヌノフグリ」が残され、苗は兎小屋へ運ばれてしまったのである。(矢作西小)

どこのクラスでも「仰げば尊し」の練習が始まった。常ひごろお茶目な子もいささか緊張気味である。

ところが、給食の時間になると、もういつもの屈託のない笑い顔にかえっている。「先生、KISSって知ってる？」突然前の席の子が話しかけてきた。以前テレビで見て薄々知ってはいたが、わざととぼけた返事をした。「うん、先生、ものすごく好きだぞ。おまえはちよっと早いかな。「いやらしいぞ。先生、誤解してらあ。それじゃB・C・Rは？」。「うんと、それは何とか言ったぞ。バカ・カバ・ローラーズとか言ったかな。「ちくしょう、B・C・Rを軽べつしたな。シヨックだわ。見てろよ。」その女の子はクラス一のB・C・R気がいだったのである。

五時間めの道徳、何くわぬ顔をして教卓の前に立つ。君たちとももうお別れだね。先生が中学生の時は、「しんみりと話をし始めようとした瞬間、例の女の子がこちらを指して「やったあ、やったあ。」と大声を張り上げる。何ごとかお腹の方をながめると、教卓の縁に塗られていた赤・白・黄のチョークが段だら模様にな衣にベトトリ。「しまった。やられた。」(福岡中)

今年もめぐり来た入学式。
教師にとっては、「年々歳々」
であるが、子供にとっては、ま
さに「生涯の輝ける日」である。
この子らに幸あれ。



「あのう、わたしは何組でしょうか？」



入 学 の 日



ふたつのよろこび—入学と誕生祝いと—



ねえ、しっかりやるのよ、



「ねえっ、先生！」



ほらっ、ぼく ここだあ

わたしは ここよ



足どりも軽く式場へ



「先輩！どうぞよろしく」
「うん、まあ仲よくやろうぜ、ハッハッハ」



うちの子の先生は？



Yの涙

美川 中

大竹鏡子

Yの家の転落を知ったのは、修学旅行の前だった。集金の日、Yは弟と共に無断欠席をした。取りあえず新しい家を探しあて、一步入った途端、私はがく然とした。ここの人達は、立ち直ろうとする気力さえない。風通しの悪い部屋は暑い。問いかける私に、Yは何も答えようとしない。「旅行には行きたくない。でもお金が出せない。そうでしょう。」と単刃直入に切り出した私に見せたのが、Yの最初の涙だった。

結局、ある人の好意でYは旅行に行ったが、「これ以上借金を増やしたくない。お金が欲しい。」とわめくように言ったYの言葉の重さに、旅行中私の心は晴れなかつた。

向学心に燃えているYは、進路の話し合いのたびに、悔し涙を流した。両親は貧困に居直り、子どものことを考えようともしない。夜逃げ同様にして再度引越した。Yは、就職して定時制へ通う決心をした。

私には、Yを卒業させ自分の手に給料を受け取るまで、自暴

自棄にならないように見守るだけが精一杯だと考えていた。しかし、ある日目の周りを赤く腫らした子が「Yにやられた。」と告げた時、私は落胆した。「何の苦勞もなく昼間の高校へ行けるやつらが憎い。」と言って泣く姿を見て、気の短い私は思わず「いくじなし。泣いてことが済むなら、私だって泣く。」と、大声を張りあげていた。

貧困は必ずしも社会のせいでも、不運なためでもない。自らの行為の結果であることが多い。そして、貧困に居直ってしまうたら、決して立ち直ることはできない。しかし、たまたま貧困を押し付けられた子は哀れである。大きなからだを震わせて、「憎い」とうめくむごさは私を圧倒する。

「泣けるエネルギーがあるなら、自活の道も開けるはず。」と言う私に対し、Yは涙を見せなくなつた。しかし、まだ終わりはない。同じことを繰り返すだろう彼の弟を思うと、私は暗たんとする。



教育日々

きょうも楽しく

常磐南小

小林春海

女子五名、男子四名の小人数クラスの二年生、女性上位？「みんなで力を合わせてがんばろう。」

という気持ちで子どもたちも私も取り組んでいる。私自らが子どもたちの中に飛び込み行動することが大切であると考え、共に学び、共に生活し、一つ一つの問題を乗り越えている。家庭へは、学級通信を出し、日頃の生活を知ってもらい子どもたちを見守っていたらいい。

次に一日の生活の中から、そのいくつかを紹介しよう。

「おはよう。」

「おはようございます。」

と、一日の生活が始まり、まず、朝の健康観察。

「○○ちゃん、かぜはどう？」

「まだ少し鼻水がでるの。」

「○○くん……………」

と、子どもたちの顔色やかからの調子をみながら、ひとりひとりとの会話を大事にし、今日も一日楽しく過せることを祈るのである。

「先生は？。」

「かぜもひいていないし、調子いいよ。」

「いつもクラスの一角に入れてくれる。」

放課には、

「先生、かんけりしよう。」

「ドッジボールがいいよ。」

とさそってくれる。われ先にと校庭へかけ出し、今までの授業の緊張も忘れ、ボールをぶつけ合う。

またある時は、

「クイズ出すよ、先生。みんな答え教えちゃあかんよ。」

やさしいだろうと簡単に考えていると大変。

「むずかしいね。なあに？。」

「先生、こうなんだね。」

と、得意そうに、答えを教えてください。

清掃が終わわり、職員室へ向かうころには、昼休みも残り少なく次の時間の始まりが迫っている。しかし、子どもたちと共にかいいた教室で一日の生活を送ることは、ほんとうに気持ちがいい。

子どもたちと心をつなげたい毎日が送れることはすばらしいことである。

おいらせ



やる気と思いやりを第一に

本年度学校教育の重点目標

教育の荒廃が厳しく指摘されることに深く思いをいたし、清新にして、真に教育愛に燃える岡崎教育の樹立をはかりたい。

まず、教師のやる気と思いやりを第一と考へ、活気に満ちた実践活動を通して心ゆたかな人間形成をめざし教育への信頼を高めたい。

〔52年度学校教育の重点〕

一、一刻を大切に、活気ある学校経営

校長を中心として教師ひとりひとりの能力創意を結集し、活気あふれる学校経営でありたい。

①生命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生きぬく力を養う。

②深く考え自ら学ぶ態度や習慣を養う。③礼節を重んじ心ゆたかな生活をきずく態度を養う。

二、現職教育の活発化

【寄贈刊行物・資料等】

◇もとじゆく子ども風土記 本宿小学校
◇この一年 六北小学校
◇南中春秋 南中学校
◇研究のあゆみ 技術家庭部
◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

◇ノートの手引 算数数学部

子どもたちに生き生きとした校外生活を得させる。③やる気と思いやりを大切にした教師集団意識の高揚に努める。

四、新任教員研修の充実

新任教員が若さと情熱を燃やし、専門的な力をつけ自信をもって教育活動に邁進できるように組織的な研究計画によってその充実をはかりたい。

①県市の研修計画を一元化した具体的な研修計画により、親切で実のある活動をすすめる。

②研修活動は担当学年教科にとどまらず、他学年他教科および市内学校間との幅広い交流によってすすめる。③一部共通的な研修内容は、全市的計画により充実をはかる。

■期待の新規採用教員百十八名
(小学校) 八〇名(男26女54)

▽梅園 後藤哲人、塩野全康、鶴田小夜子▽根石 杉浦修、国島有子▽男川 岩瀬功、杉浦正子、浦野寿子▽美合 伊藤直哉、岡本昌子▽緑丘 都築敬子、山本晴美▽羽根 武井恒夫、小谷明子、古井希代子、牧里恵、鈴木一生▽岡崎 高橋敬子、富森恵美子▽六名 山本誠、岡山由美子、早瀬美舟▽三島 村田敏郎▽美美丘 榑原千三子、山口初子▽連尺 小谷利江、深谷真弓、山本恵子、沢田恵美子、▽

廣幡 忠内伸恵、鈴木優美子、▽愛宕 中村佳代子、▽井田 糟谷幹生、野村幸子▽福岡 藤田厚子、松井京子、山口辰夫▽

竜谷 吉田俊子▽藤川 高橋照恵、山田としみ▽山中 大海あいつ▽本宿 鈴木悟、石川利博▽

秦梨 平国勇造、本多智秋▽常磐南 小嶋寿和子▽常磐 小栗正貴、小田桐里恵▽細川 竹内春美▽岩津 紫田輝夫、永田雅子▽大樹寺 香村敏之、佐野裕昭、高橋順子、豊田猶子、沢裕子、鈴木豊子▽大門 落合敬子▽矢作東 萩原寛、森本多映、岩月裕子、塚本春美▽矢作北 小嶋和光、志賀茂子、▽矢作西 高木緑、福山洋子、▽矢作南 太田恭子、大村寛、加藤恵美代、杉山宣子▽六ツ美中部 太田禮子、紫田順子▽六ツ美北部 石川昌幸、本田浩登▽六ツ美南部 吉田里美、佐野勉▽城南 稲垣考俊、齊藤博子、土屋久子、大河内栄子

(中学校) 三八名(男19女19)▽甲山 織部一良、鳥田晃司、石原博子▽美川 平岩浩文、丸尾光司、加藤久美子▽南 市川充、浅井知佐子、阿部高子、中根俊忠、柴田鉄夫▽竜海 岡田淳子、戸田千恵▽葵 海藤茂美、

倉橋正博、牧達教、都築孝子、▽城北 栗田正明、金沢智文、神尾芳江、高橋美代子、山田奈納子▽福岡 近藤博子▽東海 萩野幸子▽河合 柴田博人▽香山 犬塚尊夫▽岩津 平岩昭、山口明宏、小野田恵子、牧寿子▽矢作 本田辰美、小林文子、田村多恵子、山下八津子▽六ツ美 安杖康則、岡田豊、富崎昌子、安達桂子

■小中学校長会役員決まる
(小中学校長会) 会長 小笠原健治▽副会長 阿部俊房
(小学校長会) 会長 阿部俊房
(梅園) 副会長 山内一良(三島) 榑田梅芳(連尺) 評議員 山内一良、榑原二夫(羽根) 石川寛(細川) 榑田梅芳、片岡利夫(根石) 岩月貞夫(井田) 庄務 太田昇(六名) 會計 稲垣茂(常磐) 監査 萩野富義(広幡)

(中学校長会) 会長 小笠原健治▽副会長 藤岡太郎(甲山) 塚本時丸(葵) 評議員 横田純也(六ツ美) 藤岡太郎、滝口忠男(竜海) 塚本時丸、山本忠男(東海) 神谷卓爾(南) 庶務 石川博(美川) 會計 加茂正雄(岩津) 監査 神谷四士保(福岡)

初子▽連尺 小谷利江、深谷真

弓、山本恵子、沢田恵美子、▽

廣幡 忠内伸恵、鈴木優美子、▽

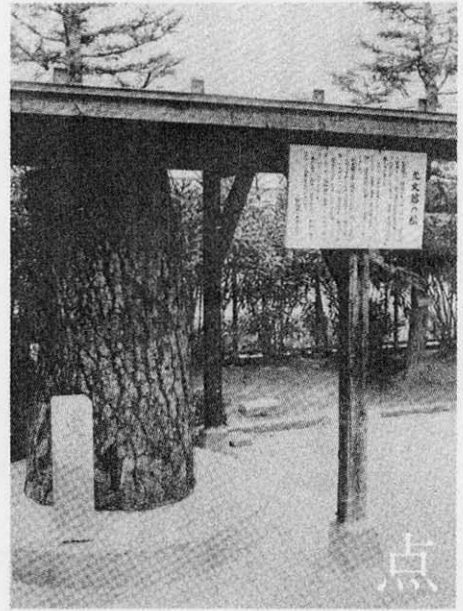
愛宕 中村佳代子、▽井田 糟谷幹生、野村幸子▽福岡 藤田厚子、松井京子、山口辰夫▽

竜谷 吉田俊子▽藤川 高橋照恵、山田としみ▽山中 大海あいつ▽本宿 鈴木悟、石川利博▽

秦梨 平国勇造、本多智秋▽常磐南 小嶋寿和子▽常磐 小栗正貴、小田桐里恵▽細川 竹内春美▽岩津 紫田輝夫、永田雅子▽大樹寺 香村敏之、佐野裕昭、高橋順子、豊田猶子、沢裕子、鈴木豊子▽大門 落合敬子▽矢作東 萩原寛、森本多映、岩月裕子、塚本春美▽矢作北 小嶋和光、志賀茂子、▽矢作西 高木緑、福山洋子、▽矢作南 太田恭子、大村寛、加藤恵美代、杉山宣子▽六ツ美中部 太田禮子、紫田順子▽六ツ美北部 石川昌幸、本田浩登▽六ツ美南部 吉田里美、佐野勉▽城南 稲垣考俊、齊藤博子、土屋久子、大河内栄子

(中学校) 三八名(男19女19)▽甲山 織部一良、鳥田晃司、石原博子▽美川 平岩浩文、丸尾光司、加藤久美子▽南 市川充、浅井知佐子、阿部高子、中根俊忠、柴田鉄夫▽竜海 岡田淳子、戸田千恵▽葵 海藤茂美、

初子▽連尺 小谷利江、深谷真



藩校「允文館」

岡崎藩校「允文館」は、本多忠直の父直民が、明治維新を契機に、子弟の教育と藩行政の近代化をめざし、家督を忠直にゆずり開設したものである。

当初、洋学も志したが、文武両道実力主義を貫き、質実剛健の気風を養ったという。その後、廃藩置県の(明治四)に廃校となったが、出席簿・休日等が定められ、学校組織のさ

きがけとして意義深い。今は、「セルビ」東側歩道上に、開校当時植樹された松の切り株(根方)跡の立札によってわずかに所在を知ることができ

る。允文館の流れをくむ「連尺小學校」に、ゆかりの松の幹と、允文館の碑が残されている。允文館所在地

岡崎市康生通西二丁目

- 題字
- タイトルイラスト
- カット

岡崎市長 内田喜久
矢作中 青木宏氏
連尺小 高木節子

この本を

- 湖の伝説 梅原 猛 ￥ 980
- マンボウ談話室 北 杜夫 ￥ 580
- 遙かなる歲月 曾野 綾子 ￥ 820
- 二十一世紀の日本 松下幸之助 ￥1,300
- 虫たちの四季 遠藤 俊次 ￥2,500
- 先史時代の日本と大陸 藤田至則他7名 ￥1,200
- 子育てごっこ 三好 京三 ￥1,100
- 根を養えば樹は自ら育つ 東井 義雄 ￥1,000
- 日本の父へ グスタフ・フォス ￥ 750
- 日本を語る 江崎玲於奈・広中平裕 ￥ 860

おそろしいほど画一的になっている——近ごろの食べ物の味である。喫茶店にはいつて、コーヒーのこぼれた皿をそのまま出すような店で、うまいものを飲ませはしない。食べ物の味は、みがかれた手と細やかな心が加わらなかつたら生まれはしないのだ。教育の場においてもまたしかりと思うが……。

オアシス

新任教員一八名、どの学校にも若さがみなぎっている。子どもたちにとって若さは魅力である。新しい体験へのひたむきな眼の輝きは、教育実習のそれとはちがう。教師は、何よりも若くありたい。子どものためにも、自分のためにも。新しいなまから学ぶことも多い。

ああしよう、こうしよう。数百枚の写真から。見やすく親しみやすい紙面をつくるべく。切ったりはったり。ああ/やんなっちゃった。エエーイ どうともなれ/あっちゃよつとまで、やるからにやしつかりやらにや。あとでみんながどんな顔して読んでくれるか。ごみ箱直行では? ああ不安!

「すんだ、すんだ、ああ疲れた。今月の反応はどうだろう。」これが、編集を終わったあとの心境である。本年度第一号、通算四十七号、親しみやすく、読みやすいようにと心がけたが、はたして評価はどうだろう。読者の声を大切にしたい。